



「先の時代を読むことの難しさ」

校長 木村 孝



12月となり、皆さん何かと慌ただしい毎日をお過ごしのことと思います。口頃は本校教育にご理解ご協力いただき、まことにありがとうございます。

さて、今年度は、4月の熊本の地震災害にはじまり、阿蘇山の噴火、そして10月の鳥取の地震災害が起

こり、「火山列島日本」「地震列島日本」をあらためて考えさせられました。私は以前、小松左京(SF作家)さん原作の「日本沈没」という映画を観た時、「これはSFの世界の話で、現実に起こるはずがない」と思ったものですが、その後起こった「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」に続く多くの地震災害にとどまらず、連続する**巨大台風の襲来**による大規模な水害や土砂災害などを見るにつけ、あの映画は本当に起こることを予測しているのでは…と最近思うようになって

います。もし「南海トラフの大地震」が起こったら…、私たちは、そして日本は、どうなってしまうのでしょうか…と、かく自分や家族の命を守ることを最優先に防災と減災

を考えておくしかありませんね。

また、別の視点から先の時代を考える時、急速な技術革新の波というものを思わずにはいられません。例えばスマートフォンが発明や進歩…、自動車が勝手に走る(自動運転技術の開発)…、コンピューターが自分で考え判断する(AI人工知能の進歩)…等々。まるで映画のターミネーターを思わせる内容です。便利になると思う反面、本当に人間にとって幸せなことばかりなのだろうか…と、何となく怖くないですか。

ノーベル(Nobel賞のノーベル)が発明したダイナマイトが人類をとてつもなく便利に、豊かにした事実と、その発明によって戦争や紛争の様相が変わり、人間の大量殺戮(ざつりく)が可能になってしまったという悲しい現実…。ちなみに「ノーベル賞」はこの反省の上に立って設立されています。

我々は、**自然の脅威**とどう向き合っていくのか。また、**技術の進歩**とどう向き合っていくのか。難しい課題です。しかし、それらを念頭に置いて考えることの先に、私たちの未来も拓けるのかもしれない。**先を読むことが難しい時代**だからこそ、正しい情報を的確につかみ、なすべき事を考え、そこに「希望」を見い出しましょう。